

「祭礼文化の調査・研究」最終報告シンポジウム 次第

日時:令和 8 年 3 月 24 日(火)18:00~20:00(予定)

会場:千代田区役所 1 階 区民ホール

1 開会挨拶

2 基調講演

(1) 人形文化史の立場から(是澤博昭氏)

(2) 近代から現代へ 東京の祭りは何が継承され何が変容したか(岸川雅範氏)

3 パネルディスカッション

(1) 是澤博昭氏

(2) 岸川雅範氏

(3) 武田俊輔氏

4 意見交換

5 配付資料

(1) 祭礼文化の継承に係る調査研究の全体像

(2) 千代田区町神輿山車他祭礼道具一覧

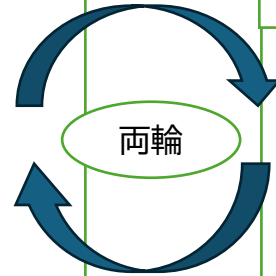
祭礼文化の継承に係る調査研究の全体像

千代田区にとって祭礼文化とは

- 地域に根差し、世代や立場を超えた交流を生み出す ⇒ 地域コミュニティの再生と活性化に大きく寄与するもの
- 多くの町会が祭礼道具を備え、受け継いできた ⇒ 文化的価値を有するもの

コミュニティとしての価値

- ・世代や立場を超えて準備・運営する
- ・自分たちの「地域」を語るうえでの象徴的行事
- ・祭礼当日は多様な住民とのコミュニケーションの場
⇒地域コミュニティの団結力向上、多様な住民との橋渡し、地域への愛着心向上



文化・経済としての価値

- ・神輿や山車、囃子道具、衣装等の有形資産
- ・掛け声、しつらえ、囃子の型や所作等の無形資産
- ・これらが単体ではなく、各町会で「群」として存在
- ・祭礼を「見る」ことによる、にぎわい、体験価値の創出
⇒文化的価値の再認識と、区内経済活性化の実現

本日のシンポジウムの位置づけ

- 本区の祭礼の歴史的経過と文化的価値を再認識する。
- 祭礼文化を未来に継承するために必要な論点を提示する。

これに加えて

- 祭礼文化の隠れた効果「協働のインフラ」について議論する。
- 祭礼文化の継承が、幅広い「公益性」につながることを議論する。

前半：基調講演

後半：パネルディスカッション

○調査研究の歩みと今後

千代田区にとっての祭礼とは

- ・祭礼の歴史的経緯を確認
- ・祭礼道具の文化的価値を確認
- ★祭礼道具一覧表の作成着手
- ・祭礼文化継承に必要な視点を整理
- ・祭礼と行政の法的関係性を整理

継承の必要性を確認
【現在位置】

祭礼文化が持つ公益性とは

- ・多様な区民との交流のかけはし
- ・防犯、防災上のシミュレーション
- ・祭礼道具が持つ文化的価値の確立
- ★祭礼道具一覧表の完成
- ・祭礼文化を通じたにぎわい創出、経済効果

○祭礼文化の継承に向けた課題と取組案

【コミュニティ】からの視点

- ・祭礼文化の運営を担う人材が不足している
- ・祭礼文化の全体像が広く認識されていない
- ・祭礼の準備段階において住民間で認識が異なっている

- ・祭礼文化の準備、運営手順に関する可視化の研究
- ・区民や来街者に対する江戸文化の積極的な魅力発信
- ・祭礼当日のみならず、準備段階も含めた情報発信

【文化・経済】からの視点

- ・祭礼道具の維持管理に対して経済的負担感が大きい
- ・祭礼道具の維持、保存、展示等に関するノウハウが少ない
- ・祭礼文化と観光集客に関する研究が少ない

- ・行政と連携して経済的課題への対応を研究
- ・他自治体の事例も参考に、維持、保存団体について研究
- ・「見せる祭礼」の観点から観光集客のあり方を研究

千代田区町神輿山車他祭礼道具一覧 令和8年3月現在

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
麹町出張所管内21町会							『祭りと都市社会』参照	『明神さまの氏子とお神輿』参照
大手丸の内町会	無し	無し	無し		無し			
※史跡将門塚保存会	平成17年作、宮窓 入母屋造で台輪3尺5寸(約106cm)	無し	無し ※神田の家所有の山車あり		無し			無し
有楽町町会								
内幸町町会	無し	無し	無し		無し	平成20年頃、作者不明 紺色、白抜きで「内幸町町会」 の文字		
永田町町会	昭和63年作、不明 台輪1尺8寸							
露が関三丁目町会	無し	無し	無し		無し	平成30年5月20日作、東京和 晒(※) 紺地、白文字、イベント時に役 員着が着用		
平河町一丁目町会	昭和34年作、宮本重義 台輪2尺3寸 平成4年新調 神輿蔵あり。※地内に平河天満宮がある。							
平河町二丁目町会	昭和26年作、後藤直光 1尺5寸							
隼町町会								
麹町一丁目町会								
麹町二丁目町会	昭和27年作、不明 1尺5寸							
麹町三丁目町会	諸和26年作、岡田屋布施 1尺3寸	昭和26年6月作、岡田屋(浅草) 平成28年5月 南部屋で修理と化粧直し 台輪1尺3寸 高さ 神輿鳳凰12cm 重量 32,7kg、鳳凰3.5kg、全体36.2 kg、神輿正面幅40cm、奥行39.5cm、高 さ81cm	太鼓山車 昭和26年6月作、岡田屋(浅 草) 御幣を持った猿の木彫り彫刻 高さ70cm 平成8年に彩色の修復 平成28年に南部屋で修復化粧直し 幅1m6cm、長さ1m53cm、高さ1m17cm 上に太鼓 直径45cm、横幅70cm	麹町囃子 昭和61年 5月10日設立 代表 石坂稔(現町 会長、第2代) 現会員数20名	祭礼、神酒所 神酒所幕 河鍋晩斎の蘭陵王のレ プリカ(実物は区に寄贈、文化財 指定) 令和5年10月に新調 八足案 天板直し 三方1尺3寸、春慶塗 金棒2本 真鍮製の神具8点(三方 大2、中 1、小2、真鍮瓶子大2、中2)	作成年作者不明 綿の半纏50着大人用、子供用 半纏(赤、茶、青)60着、貸 し出し用(昭和頃)平成28年5 月貸出用半纏50着 縹色で前 町会長根岸進氏のデザイン		
麹町四丁目町会	平成23年作、(株)日本木工振興 2尺3寸 昭和26年作、岡田屋布施 1尺5寸							
麹町五丁目町会	無し	無し	無し		鏡、掛軸あり	あり		
麹町六丁目町会								
紀尾井町町会	無し	無し	無し			平成16年作、森田屋(埼玉県 草加市住吉1-11-68) 徳川の大紋に三つ葉葵紋(前町 会長・戸田豊重曾祖父・徳川慶 喜)		
一番町町会	昭和28年作、不明 不明 ※現在修復中		製作年、製作者不明 巾1250mm、長さ1370mm、高さ不明 ※現在修復中					
二番町町会	昭和31年作、不明 不明		昭和30年作、太鼓山車 昭和32年作、獅子頭					
三番町町会	昭和26年7月作、宮本重義 台輪1尺8寸 菊の紋	製作年不明、製作者不明 寸法高さ1m3cm、幅60cm、重さ25kg 菊座付き巴紋	太鼓山車 昭和26年作、作者不明 幅1.6m、長さ2.5m、高さ4m 東郷平八郎元帥人形					
四番町町会	無し	昭和34年6月作、後藤直光 台輪1尺 白木仕様、屋根は茶・漆塗 写真あり	太鼓山車 昭和34年6月作、作者不明 乙姫様人形、子供用として使用 写真あり			平成22年頃、蔵前ミノヤ商店 藍色、背文字は江戸文字の四 「卵」を使用		
五番町町会								
六番町町会		昭和33年頃作	太鼓山車 昭和33年頃作					
富士見出張所管内 8町会、2準町会								
九段一丁目町会	戦前作か 20年位前に浅子にて修理 台輪2尺	中神輿 作成年、製作者不明 小神輿 作成年、製作者不明	太鼓山車 作成年不明		無し	10年位前に作成		

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
九段二丁目町会	製作年（昭和25年頃か）、製作者不明 台輪1尺8寸 2014年に宮本卯之助商店にて修繕	製作年不明、田原町岡田屋義正 台輪1尺1寸	太鼓山車 作成年不明 朱色の山車、寸法5尺（152cm）×3尺5寸（106cm） 太鼓山車（預かり） 製作年・作者不明 胴横に銀杏囃子の彫刻 寸法271cm×182cm 田町（本芝）～芝浜～中野（貸出）の経過あり 太鼓山車（預かり）製作年作者不明 富士見町一丁目町会の山車 寸法5尺（152cm）×3尺5寸（107cm）		獅子頭 製作年作者不明	製作年作者不明 複数柄の半纏あり 時代により寸法が異なる		
九段三丁目町会	昭和5年頃作	大正年間作、製作者不明 台輪1尺3寸 細かな装飾あり	太鼓山車 大正年間作、作者不明 長さ3m、幅1.5m、高さ3.5m（人形設置時） 車輪直径3尺（後輪）の漆塗り御所車。牛若丸人形を設置		獅子頭 大正年間作、作者不明 中型1対、山車に設置 掛軸 東郷元帥直筆 昭和初期 「大社 日枝神社」の文字、祭典の際に神酒所に展示 神酒所用飾り紫幕 昭和24年6月に九段芸妓一同により寄贈	作成年、作者不明 薄い黄緑地、全体に銀杏の葉を散らしたデザイン、背中の町会紋には「三」を紅さし		
九段四丁目町会	昭和22年作、後藤直光 台輪2尺5寸 延屋根型、屋根紋 日枝神社双葉葵・横は巴 厥手は龍を巻き付け、吹き返しには双葉葵と町名 正面鳥居は山王鳥居（氏子で唯一）瓔珞も双葉葵と町名 正面扉裏に双葉葵	昭和22年作、後藤直光 台輪1尺5寸 延屋根型 大神輿と対で製作 昭和28年作、宮本重義 台輪1尺2寸 唐破風屋根型	昭和27年作、宮本重義 昭和32年、山車本体再建、平成6年大修繕 弁慶と牛若丸人形 作者・平田洋光・黒岩（名前一部不明） 牛若丸弁慶の五条大橋の出会いを表現 衣裳は京都・西陣織り 初代の山車は布袋様、現在の伊勢丹のウィンドーにあった物を譲り受けたと記録（写真あり）		獅子頭 昭和27年作、後藤直光 2尺8寸 町会の中で大きいほう 獅子の口を開けると舌に当時の諸先輩の名前が記載 高札の写真あり			
富士見一丁目町会	無し	無し	太鼓山車 昭和27～8年頃作、作者不明 令和4年修復、関宝珠堂 破棄が決定していたが修復して復活を再決定 費用などの問題もあり、九段二丁目町会と共同使用を節目に修繕 太鼓山車 製作年、製作者不明		無し	作成年不明、作者不明 白色、緑色の2種、緑色を主として使用		
富士見二丁目町会	昭和31年9月作、浅子周慶 台輪2尺3寸 屋根延神社型塗神輿 令和4年、中台製作所により修復 和富会により寄付	製作年、製作者不明 台輪2尺 ※写真あり				製作年、作者不明 藍色、町会半纏として貸出		
飯田町町会	昭和29年9月作、宮本重義							
飯田橋町会	昭和32年作、種谷豊次郎 台輪2尺8寸、平成元年、種谷吉次により修復							
北の丸町会（準町会）								
皇居内（準町会）								
神保町出張所管内 12町会								
神保町一丁目町会	平成15年作、宮本卯之助 台輪2尺3寸（約70cm）、重量330キ口						神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 2基 ※神保町一丁目南部町会	2尺1寸 宮本重義 昭和27年作 1尺5寸 不明 不明
神保町一丁目北部町会	昭和初期作、岡田布施 平成29年修繕と磨き直し、台輪2尺							
神西町会	昭和27年作、宮惣 台輪2尺 堂柱は黒漆塗、胴は白木彫刻	無し	太鼓山車 戦前製作年不明、宮本卯之助					
北神町会	令和4年6月作、7世宮惣・青柳理市 台輪2尺1寸 角台輪、四方扉、延屋根、漆塗り 三崎神社宮神輿の縮小型（同仕様）（渡御用の瓔珞を別途制作） 写真あり	製作年不明、製作者不明 台輪1尺 令和4年大神輿新調時宮惣にて解体修理 特徴：扇垂木（垂木金具は手打ち金物）、彫刻は総金箔（屋根裏も総金箔）、特上彫り、地板が二重、台輪の天板に真鍮板（金メッキ） 台棒寸法：4500、脇棒：3900、横棒（トンボ）：1980、飾り棒：1500	太鼓山車 作成年、作者不明 令和4年大神輿新調時宮惣にて解体修理			作成年 30年前、半纏屋、名入り半纏 作成年 令和5年、関カメオカ、貸半纏		

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
神保町三丁目町会	昭和54年5月作、宮本重義 台輪2尺3寸、屋根2尺5寸							
西神田町会	昭和13年作、宮惣 平成26年に神田須田町二丁目町会より譲渡、台輪2尺3寸							
西神田三丁目町会	平成28年作、6世宮惣 台輪2尺3寸5分							
神田三崎町一丁目町会	大正末期作、6世後藤直光 昭和38年に修繕、台輪2尺3寸							
神田三崎町町会	昭和33年作、宮本重義 台輪2尺3寸、屋根2尺5寸							
神田猿楽町町会	平成27年作 屋根唐破風神社型 台輪寸法2尺3寸(約70cm) 堂羽目彫刻に猿楽「翁(おきな)」を彫刻、その足下に神田川、もう片方に「天の岩戸」、上長押に十二支、狛犬は阿吽獅子						神輿 大 借出 神輿 中 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作	2尺 後藤直光 昭和8年作 1尺 不明 不明
一神町会	昭和56年4月作、小川政次(栃木県指定無形文化財工芸技術保持者) 台輪2尺2寸5分 二重勾欄(ワラ)と平屋台(ヒヤイ)と両方の楽しみが見せ場。 左右の胸には牡丹と唐獅子を彫り、欄間には松に鶴、下は腰木体(コシキタ)でまとめ、間の浜線下(ハシツツ)には波と亀が刻んである。屋根を見ると、野筋(ノス)と軒面(ノカマ)には紗綾形(サヤガ)の模様を入れ、真返し(マカシ)の雲渦(ウカ)の浮き出しが優れている作品。	昭和56年4月作、小川政次(栃木県指定無形文化財工芸技術保持者) 台輪1尺5寸 延べ屋根二重勾欄四方階(シカクザル)町会内日本教育会館地下倉庫にて保管	太鼓山車 昭和8年5月作、神田宮惣 高池和七(発起人)、山口忠次郎、川村金美、三橋謙治郎、田中融治が寄贈 町会内防災倉庫にて保管		町会内日本教育会館ロビーにて、常時展示	必要に応じて製作 昭和54年制定 濃紺、龍目模様、襟は「一神」紋章に屋号店名、背に「一神」の大字。		
駿河台西町会	無し	無し	無し	無し	無し	あり		
神田公園出張所管内 20町会								
神田錦町二丁目町会	昭和33年作、宮本重義 台輪2尺1寸 二段台輪、平成17年に修理	作成年不明、宮本重義 1尺2寸 平成31年に修理	太鼓山車 製作年不明、宮本重義		神酒所用祭具一式	約200枚	神輿 大 昭和33年作 神輿 小 昭和26年作 太鼓山車 昭和26年作	2尺1寸 宮本重義 昭和33年作 1尺5寸 宮本重義 昭和8年作
錦町三丁目町会	昭和8年作、4世宮惣・村田喜三郎 台輪2尺6寸 平成8年修復、小川政次 金虫喰塗 錦町三丁目町会・錦町三丁目第一町会の連合 ※別紙 詳細写真あり	中神輿 大正頃か 作者不明 台輪1尺6寸 子供神輿 昭和7年作、4世宮惣・村田喜三郎 台輪1尺5寸	太鼓山車 昭和7年作、4世宮惣・村田喜三郎 柱建て持ち送り型、寸法：幅4尺×奥行5尺5寸×高さ9尺、太鼓金字入り・朱塗り 桃太郎・太鼓山車 昭和9年作、宮本卯之助商店 昭和8年の皇太子ご降誕を奉祝して新調 平成28年改修				神輿 大 神輿 中 神輿 小 太鼓山車	2尺5寸 宮惣 昭和8年作 1尺5寸 宮惣 昭和7年作
錦町三丁目第一町会	無し	無し	無し	無し	無し	あり	神輿 昭和6年作 太鼓山車 昭和6年作	無し
小川町一丁目南部町会	無し	無し	無し		無し	あり 製作年、製作者不明	神輿 昭和29年作 太鼓山車 昭和29年作	無し
小川町二丁目南部町会								無し
小川町三丁目南部町会	昭和30年作、宮本重義						神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作	1尺3寸 宮本重義 昭和30年作
小川町連合	昭和62年作、宮本重義 子供神輿、中神輿もあり 大人神輿は2尺5寸(約75.8cm) 小川町三丁目西、北部一丁目、北部二丁目、北三町会の連合		太鼓山車					2尺4寸 宮本重義 昭和30年作
小川町北部一丁目町会	昭和62年作、宮本重義 子供神輿、中神輿もあり 大人神輿は2尺5寸(約75.8cm) 小川町三丁目西、北部一丁目、北部二丁目、北三町会の連合		太鼓山車					無し
小川町北部二丁目町会	昭和62年作、宮本重義 子供神輿、中神輿もあり 大人神輿は2尺5寸(約75.8cm) 小川町三丁目西、北部一丁目、北部二丁目、北三町会の連合		太鼓山車				神輿 大 昭和22年作 神輿 小 昭和22年作 太鼓山車 大正13年作	1尺5寸 秋山三五郎 昭和5年作
小川町北三町会	昭和62年作、宮本重義 子供神輿、中神輿もあり 大人神輿は2尺5寸(約75.8cm) 小川町三丁目西、北部一丁目、北部二丁目、北三町会の連合		太鼓山車				神輿 大 昭和13年作 神輿 中 昭和35年作 神輿 小 昭和22年作	1尺5寸 秋山三五郎 昭和5年作 1尺3寸 岡田屋布施 昭和5年作

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
小川町三丁目西町会	昭和62年作、宮本重義 子供神輿、中神輿もあり 大人神輿は2尺5寸(約75.8cm) 小川町三丁目西、北部一丁目、北部二丁目、北三町会の連 合		太鼓山車				神輿 大 昭和33年作 神輿 小 昭和33年作 太鼓山車 昭和33年作	1尺3寸 岡田屋布施 昭和27年作
内神田美土代町会	昭和28年作、宮本重義	あり	あり		八足1組、神具1式、弓張提灯12張、高張提灯4張、赤丸提灯7張、神紋入奉納帯2枚、神酒所思想食用造花1式、上記用品の付属品並びに雑品1式	大人用貸出半纏350枚		2尺 宮本重義 昭和32年作 1尺3寸 宮本重義 昭和32年作
司町一丁目町会	昭和31年作、宮本重義 台輪2尺2寸 唐破風型神輿、旗手は金と銀の昇り龍(2色の塗分け)、 棒先金物は町会名の鍔物・台輪の四隅は鍔物、四隅の鳥は 鳳凰型	昭和作、宮本重義 台輪1尺3寸 唐破風型神輿	昭和9年5月作、宮本重義 皇太子御生誕記念で新調 太鼓山車 5尺×3尺8寸 帯板には龍の彫刻 太鼓の直径2尺 平成19年5月に修復		作成年不明 30年近く前にデザイン変更 名入り役員半纏(個人持ち)20名、担ぎ半纏(個人持ち)80枚、 担ぎ半纏(町会保有)310枚、子供用半纏(大中小)100枚		神輿 大 昭和31年作 神輿 小 昭和31年作 太鼓山車	2尺 宮本重義 昭和31年作 1尺5寸 宮本重義 昭和31年
司町二丁目町会	昭和27年作、宮本重義 2尺3寸 平成13年に大補修 二重台座、本塗の屋下総金箔押【おくかそうきんぱくお し】で彩られています。台輪の四方には四神【しじん】彫 刻。総勢400名で担ぐ神輿	昭和27年作、宮本重義 1尺5寸 子供神輿、大神輿と同じ屋根唐破風型神 社神輿	太鼓山車 昭和27年作、宮本重義 数年ごとに皮の張替え				神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車	2尺5寸 宮本重義 昭和28年作 1尺5寸 宮本重義 昭和28年作
内神田旭町町会	昭和27年作、宮本重義 江戸時代に出していた永富町・龍神山車にちなんで神輿に 龍神山車と花笠の町衆を彫刻	製作年、製作者不明	無し		無し	あり	神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作	2尺3寸 宮本重義 昭和27年作 1尺5寸 宮本重義 昭和27年作
内神田鎌倉町会	昭和38年作、宮本重義 台輪2尺5寸 唐破風型屋根、旗手巻巻、龍彫刻、胴四神彫刻、朱色の飾 網を施す	昭和38年作、宮本重義 台輪1尺3寸 延屋根型	太鼓山車 昭和38年作、宮本重義 鞍馬山天狗木彫り彫刻 長さ4m幅1m高さ5m		獅子頭 昭和27年作、作者不明 あ・らん 担ぎ棒あり 万灯1本 「鎌倉町」の万灯80 cm、棒の長さ2.5m	昭和40年～令和元年作、海老 屋染物店 漆緑色、背面虫食い「鎌倉町」 紋 400枚	神輿 大 昭和38年作 神輿 小 昭和38年作 太鼓山車(獅子頭)2基 昭和27年 作	2尺5寸 宮本重義 昭和38年作 1尺5寸 宮本重義 昭和38年作
多町一丁目町会	昭和25年作、宮本重義 令和元年に大規模修繕						神輿 大 昭和25年作 神輿 小 昭和25年作 太鼓山車 昭和25年作	2尺 宮本重義 昭和25年作 1尺 宮本重義 昭和25年作
多町二丁目町会	昭和54年作、志布景影 台輪3尺、3重垂木、3重高欄、全漆塗り、6点棒・6メー トル、トンボは3種類 ※大正9年秋山三五郎作の神輿が東博に所蔵	昭和54年作、志布景影 台輪1尺6寸	昭和54年作、松島太鼓店 太鼓の上に金色の諫鼓鶏		駒札 大正9年5月(神田神社の焼き印あ り) 昭和21年(神田復興祭で使用)他	各年製作 約400枚 その他各町会員所有	神輿 大 借出 神輿 小 借出 太鼓山車	3尺 志布景影 昭和54年作 1尺6寸 志布景影 昭和54年作
神田鍛冶三町会	昭和32年5月作、岡田屋布施 台輪約1尺8寸	製作年不明、岡田屋布施 台輪約1尺4寸	昭和27年5月作、岡田屋布施		獅子頭 平成21年5月作、岡田屋 布施	製作年、製作者不明	神輿 大 昭和31年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作	2尺2寸 岡田屋布施 昭和37年作 1尺5寸 岡田屋布施 昭和37年作
神田橋町会								
万世橋出張所 21町会								
駿河台東部町会	無し 神社所有の宮神輿・子神輿・山車あり					あり		
淡路町一丁目町会	昭和40年作、宮本重義				無し		神輿 大 昭和37年作 神輿 小 昭和37年作 太鼓山車 昭和33年作	1尺8寸 宮本重義 昭和40年作 1尺5寸 宮本重義 昭和40年作
淡路町二丁目町会	昭和52年作、宮本重義						神輿 中 昭和15年作 神輿 小 大正末 太鼓山車	2尺5寸 宮本重義 昭和52年作 1尺5寸 宮本重義 大正14年作
須田町一丁目南部町会	昭和6年作、宮本重義 彫刻が非常に凝った作り		太鼓山車 戦前作、宮本重義 歳徳神木彫り彫刻				神輿 大 昭和13年作 神輿 小 昭和13年作 太鼓山車 昭和13年作	2尺 宮本重義 昭和6年作
須田町中部町会	昭和52年より女神輿 旧神輿は昭和28年作、宮惣		太鼓山車				神輿 小	1尺5寸 宮惣 昭和28年作
須田町北部町会	昭和16年作、鹿野喜平 台輪2尺(60cm)	製作年不明、製作者不明 神輿と同年代の政策ではないかとのこと	昭和13年5月 アンケートの回答では製作年不明 年配の方々によると「自分が子供の頃だ から」とのことと80年くらい前のものか とのこと			製作年、製作者不明	神輿 大 震災後 神輿 小 震災後 太鼓山車 震災後	1尺8寸 鹿野喜平 昭和16年作 1尺 鹿野喜平 昭和16年作
外神田一丁目万世橋町会	昭和35年作、宮本重義(しげよし) 台輪2尺5寸	昭和35年作、宮本重義 台輪1尺5寸					神輿 大 昭和30年作 神輿 小 昭和30年作 太鼓山車 昭和30年作	2尺5寸 宮本重義 昭和35年作 1尺2寸 宮本重義 昭和35年作

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
神田旅籠町会	昭和33年作、下谷南部屋五郎右衛門 平成17年3月13日に台輪を2尺5寸から2尺7寸へ修復	昭和33年作、下谷南部屋五郎右衛門 台輪1尺	太鼓山車 昭和33年作、下谷南部屋五郎右衛門 長さ4.5m、幅2m、高さ4m		手古舞衣装 戸田屋 10年前作 大小10セット 金棒 5年前作 戸田屋 在庫大 小10本 高張提灯 土屋 在庫50張 4年 ごとに壊れたものを新調	20年前作、戸田屋 緑色地500枚	神輿 大 昭和33年作 神輿 小 昭和33年作 太鼓山車 昭和33年作	2尺5寸 南部屋五郎右衛門 昭和 33年作 1尺4寸 南部屋五郎右衛門 昭和 33年作
神田金澤町会	昭和36年作、宮本重義						神輿 大 昭和40年作 神輿 小 昭和23年作 太鼓山車 昭和23年作	2尺2寸 宮本重義 昭和36年作 1尺5寸 宮本重義 昭和36年作
神臺會	昭和32年作、宮信						神輿 大 昭和33年作 神輿 小 昭和33年作 太鼓山車 昭和23年作	2尺 宮信 昭和35年作 1尺1寸 宮信 昭和35年作
神田同朋町会	平成8年3月作、宮本卯之助商店 台輪2尺3寸 唐破風型屋根 昭和27年作、宮本卯之助商店 台輪2尺 大人中神輿	製作年不明、宮本卯之助商店 台輪1尺6寸	昭和27年作、作者不明 太鼓を叩く面に漆で神社紋が印字			平成8年作、平井安之助商店	神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車	2尺3寸 宮本重義 平成8年作
宮本町会	昭和35年作、宮惣 ※子供神輿 大人神輿は神田明神の中神輿を貸し出し						神輿 小 昭和35年作	1尺 宮惣 昭和35年作
神田末廣町会	大正15年作、だし鉄 屋根は金梨造りで、大きさは2尺3寸		太鼓山車 だし鐵				神輿 大 神輿 中 神輿 小 太鼓山車	2尺3寸 多し鉄 大正15年作 1尺5寸 多し鉄 大正15年作
神田五軒町々会	昭和52年7月作、宮本重義 屋根唐破風型白木造り総彫刻、三味線胴 重さ約300kg、台座2尺3寸(約70cm)、高さ6尺8寸 (約200cm・鳳凰を含む)、幅4尺7寸(約150cm)、親 棒の長さ16尺(約500cm)	製作年不明、製作者不明 台輪1尺 唐破風型屋根、梨地、角台輪	太鼓山車 昭和9年5月作、だし鐵 幅3尺8寸、長さ5尺		無し	色：鳩羽鼠(はとばねずみ)	神輿 大 昭和9年作 神輿 中 昭和30年作 神輿 小 昭和30年作 太鼓山車 昭和9年作	2尺3寸 宮本重義 昭和52年作 1尺2寸 宮本重義 昭和52年作 1尺 岡田屋布施 昭和28年作
神田松住町会	無し	無し	無し			1_湯島天満宮 祭礼半纏 (白・梅鉢) 2_町会半纏(紺)		
神田田代町会	昭和35年作、だし鉄						神輿 大 昭和35年作 神輿 小 昭和11年作 太鼓山車 昭和11年作	2尺5寸 多し鉄 昭和35年作 1尺5寸 多し鉄 昭和11年作 1尺2寸 多し鉄 昭和35年作
神田松富町会	昭和53年作、宮本重義 台輪2尺5寸	昭和7年作、宮本重義 1尺5寸くらい	太鼓山車 昭和7年作、宮本重義		無し	あり	神輿 大 大正15年作 神輿 小 太鼓山車	2尺 宮本重義 昭和53年作
神田柴町会	昭和54年作、松村鋳師(台東区今戸) 台輪2尺2寸 戦災で焼けてしまった町会の神輿等一式を新調 平成19年に修理	昭和54年作、松村鋳師(台東区今戸) 台輪1尺	太鼓山車 昭和54年作、松村鋳師(台東 区今戸) 子供用として使用していたが少子化によ り、平成25,6年から使用していない		獅子頭 昭和5年作、松村鋳師	昭和54年作、町会デザイナー 平成25,6年に一部デザインを 変更		2尺1寸 松村鋳師 昭和54年作 1尺1寸 松村鋳師 昭和54年作
神田元佐久間町会	昭和5年作、宮惣							2尺3寸 宮惣 昭和5年作 1尺5寸 宮惣 昭和5年作
神田亀住町会								
神田山本町会		無し	無し		無し	平成25年作、太田旗店 令和元年、令和5年、令和7年 追加製作		
和泉橋出張所 25町会								
神田駅東連合町会9町会								
鍛冶町一丁目町会	昭和29年5月作、5世宮惣・村田桂一 台輪2尺3寸 神田明神の氏子町会の中で数少ない入母屋造り	昭和29年5月作、5世宮惣・村田桂一 台輪1尺2寸 平成23年台輪解体締直し、木地補修、漆 塗り、飾り金具再鍍金、紐調整等の修復 を実施	太鼓山車 昭和29年5月作、5世宮惣・村 田桂一 平成23年に木地洗浄、金具点検調整、車 輪締直し、ブレーキ補修、太鼓腹部復元 補強等の補修を実施			製作年不明、作者不明 昭和60年には今のデザイン 青緑色の担ぎ手用、海老茶色の 青年部用、別途女性部(婦人 部)用もあり	神輿 大 昭和29年作 神輿 小 昭和29年作 太鼓山車 ※鍛冶町一丁目囃会	2尺3寸 宮惣 昭和29年作 1尺5寸 宮惣 昭和29年作
鍛冶町二丁目町会	昭和9年作、宮惣 台輪2尺6寸、総樺作り 子供神輿あり		太鼓山車 宮惣				神輿 大 大正13年作 神輿 中 大正13年作 神輿 小 大正13年作 太鼓山車	2尺6寸 宮惣 昭和14年作 1尺5寸 宮惣 昭和14年作

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
昭和町会							神輿 昭和26年作	1尺5寸 不明 昭和26年作
北東物町町会	無し	無し	獅子頭太鼓山車 昭和29年作 台座は総樺作り				獅子頭太鼓山車 昭和36年作	無し
紺屋町南町会	平成11年作、飯田昭次郎（同町会元町会長） 紙と木で作られた神輿							2尺3寸 飯田昭次郎 平成11年作
紺屋町北町会		製作年不明、宮惣					神輿 昭和30年作	1尺5寸 宮本重義 昭和30年作
神田富山町会	昭和30年作、後藤直光						神輿 大 昭和30年作 神輿 小 昭和30年作 太鼓山車	1尺8寸 後藤直光 昭和30年作 1尺 岡田屋布施 昭和30年作
東松下町々会	昭和31年5月作 宮本重義 台輪 2尺9寸 木彫、伝統的な職人の技で作成され現代では再現できないとの事、 オレンジの綱	製作年不明、修復 2019年 台輪 1尺3寸 漆塗り、大人の神輿と同様、こまかい所の修復ができなく再現するのに大変だったらしい。少し以前と彫が変わった。 オレンジの綱	曳太鼓（太鼓山車） 宮本重義作 昭和26年作 修復令和4年 長さ137cm、幅98cm、えんじ色 オレンジの綱			製作年月日 不明 製作者_みやさか、 町会員_紺半纏 町会役員_紺半纏の長尺 青年部_緑半纏		
神田須田町二丁目町会	平成25年5月作、宮惣・種谷製作所 台輪2尺8寸 延屋根、総彫、総彩色 ※旧神輿は昭和13年作、宮惣で現在は西神田町会使用	昭和作か、宮惣 台輪 不明	昭和作か、製作者不明	無し		あり		2尺3寸 宮惣 昭和13年作 1尺5寸 浅子周慶 昭和9年作
岩本町東神田町会連合会8町会								
岩本町三丁目町会	昭和28年5月作、宮本重義 第一号特注品 台輪2尺5寸（約75.8cm）、高さは7尺8寸（約236.4cm） で、 唐破風漆塗神社型、厥手金龍巻、鳥居他、昇り龍・降り龍、彫刻極彩色仕様、豪華絢爛	中神輿 製作年不明、宮本卯之助商店 小神輿 製作年不明、宮本卯之助商店	太鼓山車 昭和28年5月作、宮惣？				神輿 大 昭和27年作 神輿 中 昭和11年作 神輿 小 昭和11年作 太鼓山車 昭和11年作 獅子頭2	2尺5寸 宮本重義 昭和28年作 1尺5寸 宮惣 昭和15年作 1尺3寸 宮惣 昭和15年作
神田松枝町会	昭和13年5月作、宮惣 台輪2尺（？） 奈良・手向山八幡宮の神輿の様式を基に製作、極彩色の神輿	昭和13年5月作、宮惣 奈良・手向山八幡宮の神輿の様式を基に製作、極彩色の神輿	羽衣人形山車 昭和13年5月作、宮惣 製作監督・西村雅之以下7名分担製作 人形製作は磯貝勝之		獅子頭 昭和初期作、作者不明	緑色地に松枝の大紋は昭和40年代からのデザイン（町会頭のアイデア）	神輿 大 昭和13年作 神輿 小 昭和13年作 太鼓山車 昭和13年作	2尺 宮惣 昭和13年作 1尺5寸 宮惣 昭和13年作
岩本町二丁目岩井会			昭和9年作、柏原基吉 山車本体 昭和11年作、柏原基吉 桃太郎人形				神輿 昭和5年作 太鼓山車 昭和5年作 獅子頭2 ※元岩井会 神輿 太鼓山車	1尺5寸 柏原基吉 昭和9年作
神田大和町会	昭和13年作、宮本重義 台座2尺、唐破風屋根、金梨地塗り、二重勾欄神輿 屋根裏以下、総白木造り 大人神輿堂嵌（どうぼめ）にある神話の天鋳女命（あまのうずめ）裸踊の彫刻	昭和13年作、宮本重義 台輪1尺5寸 塗神輿に比べ彫刻に凝った作り	太鼓山車 昭和23年作、宮本重義 天鋳女命人形			平成17年作 当時の副町会長がデザイン 藍色、背中の名前が岩二、大和		2尺 宮本重義 昭和12年作 1尺3寸 宮本重義 昭和12年作
神田東紺町会	昭和29年作、浅子周慶 台輪2尺3寸	昭和29年作、浅子周慶 台輪1尺3寸	昭和25年作、宮本卯之助 ※町会の子供たちもみんな大好きな太鼓山車。今の町会役員も青年部員も、皆小さい時にこの曳太鼓に乗って叩いていました！				神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作 ※東紺親和会	2尺 浅子周慶 昭和29年作 1尺2寸 浅子周慶 昭和29年作
岩本町一丁目町会	昭和31年作、14代目浅子周慶 台輪2尺3寸、黒漆塗りの屋根、延屋根照型、二重勾欄造り 軒下の垂木は扇垂木、同羽目は東に「素菱鳴尊」西に「奇稲田姫」、屋根上の大鳥は「浅子型」、台輪紋は旧町会の一部「福材睦」	製作年不明、製作者不明 台輪1尺6寸 屋根は梨地漆塗、延屋根型、白木造り、二重勾欄造り、同羽目は東に「神武東征」西に「天の岩戸」、台輪の東西南北に「喜龍白虎生坐玄堂」	昭和11年5月作、製作者不明 鼓面2尺強の長胴太鼓、太鼓頂部に岩組と鶏の飾り、曳台の前後に獅子と牡丹の彫刻、太鼓脚部に「福和会」（旧町会の一部睦会名）の文字				神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作	2尺3寸 浅子周慶 昭和13年作 1尺5寸 不明 不明
東神田町会	昭和29年5月作、浅子周慶 台輪 2尺7寸 堂部は極彩色、堂嵌は唐獅子に牡丹華で「獅子の子落し」を表現、欄間に菊花など全15種の華を配置、鳳凰は平等院鳳凰堂の屋根飾と同じ、鳳の足下に古風な樹形露盤【ますがたろぼん】、鳥居は白檀塗、側面に東神田と陽刻、台輪内へ親棒が入り易いように箱造り	昭和29年5月作、浅子周慶 台輪1尺3寸	昭和29年作、浅子周慶 太鼓山車、誂談鶏		昭和29年作、浅子周慶	製作者 1丸三織商（日本橋横山町）、 2戸田書店（神田松枝町）、3 ヤマタ商事（神田大和町） 白い牡丹文字による東神田の大紋、紺地化学染め	神輿 大 昭和29年作 神輿 小 昭和29年作 太鼓山車 昭和29年作 獅子頭 昭和29年作	2尺7寸 浅子周慶 昭和29年作 1尺3寸 浅子周慶 昭和29年作

町会名	神輿	子供神輿他	山車	囃子	その他	半纏	昭和44年当時の記録	平成13年当時の記録
神田豊島町会	昭和28年作、15代浅子周慶 台輪2尺6寸 黒漆塗りの延屋根照型、平屋台、三味線胴、屋根紋は神田明神の流れ三つ巴、路盤に四神、軒面に叢雲と流れ三つ巴と豊島町の紋、の筋は所々青銅で透かし加工、同の左右に天の岩戸と八岐大蛇の彫刻、枅組と長押の間の彫刻は十二支の干支、木鼻は獅子の毬持ち（透かし彫りの毬）、大鳥は京都宇治の平等院の国宝を参考にした朝小型鳳凰・大鳥小鳥は珍しい青銅色、前の井垣と堂の間に狛犬、台輪紋は流れ三つ巴に前後は鳳凰・左右は龍、角金物は鳳凰と法草華で三味線胴、鳥居に昇り龍降り龍、風鐸は青銅色、屋根が胴より大きく全体に金色を抑え青銅の中に処々に金を配して洗いな古典的な格調高い品格である豊島型 製作費85万円、修理：昭和58年、平成17年、令和2年 写真あり	昭和32年作、15代浅子周慶 1尺1寸 唐破風屋根、白木造り、屋根も堂も鳥居も総彫り 写真あり	太鼓山車 昭和27年5月作、製作者不明 太鼓の上に大鳥 写真あり		獅子頭 昭和28年作、15代浅子周慶 写真あり	1 戦後か、製作者不明、身頃は濃緑で衿に流れ三つ巴と豊島町、背中に丸の中に豊島町の代紋 2 昭和40年代、戸田商店か、身頃は濃緑で衿は濃紺、衿に豊島町、背中に豊島町の代紋 3 昭和40年代、戸田商館か、身頃は濃紺、衿に神田豊会、背中に豊島町んじよ代紋 4 令和7年3月、有限会社中山染工場、身頃と衿は鼠色、衿に豊島町の太紋に豊島町の札（現在の半纏） 写真あり	神輿 大 昭和30年作 神輿 中 昭和25年作 神輿 小 昭和25年作 太鼓山車 獅子頭	2尺5寸 浅子周慶 昭和32年作 1尺5寸 宮惣 昭和9年作 1尺1寸 浅子周慶 昭和32年作

秋葉原東部町会連合会6町会

佐久間町一丁目町会	無し	無し	無し		無し	あり		無し
神田佐久二平河町会	昭和27年作、後藤直光						神輿 大 昭和27年作 神輿 小 昭和27年作 太鼓山車 昭和27年作	2尺3寸 後藤直光 昭和27年作 1尺3寸 後藤直光 昭和27年作
神田佐久間町三丁目町会	昭和32年作、後藤直光 台輪2尺3寸 唐破風型塗り神輿、屋根は梨地塗 平成18年修復	昭和32年作、後藤直光 1尺3寸 唐破風型塗り神輿、屋根梨地塗 平成8年修復	太鼓山車 作成年不明、岡田屋布施 6尺×4尺 平成13年修復				神輿 大 戦後 神輿 小 戦後 太鼓山車 戦後	2尺3寸 後藤直光 昭和32年作 1尺5寸 後藤直光 昭和32年作
神田佐久間町四丁目町会	昭和32年作、浅子周慶						神輿 太鼓山車	2尺3寸 浅子周慶 昭和32年作 1尺3寸 浅子周慶 昭和32年作
東神田三丁目町会	平成16年作、落合美行（宮大工） 台輪2尺5寸	昭和28年作、宮松 台輪1尺3寸 白木造り	太鼓山車 昭和27年作、作者不明		無し	2015～19 丸善、2023～25 佐藤万、2015年以前は不明町会半纏350枚、個人町会半纏約100枚、町会子供半纏60枚、青年部半纏30枚	神輿 小 昭和27年作 太鼓山車	1尺5寸 宮松 昭和28年作
神田和泉町町会	昭和27年作、宮本重義 台輪2尺5寸 屋根唐破風型、腕手の龍が特徴 ※写真あり	中神輿 昭和27年作、宮本重義 台輪1尺3寸 屋根延型 小神輿 昭和27年作、宮本重義 台輪1尺1寸 屋根延型	太鼓山車 昭和27年作、宮本重義		無し	1977年作、町会・川口屋 大小あられ	神輿 大 昭和31年 神輿 中 昭和27年 神輿 小 昭和27年 太鼓山車	2尺5寸 宮本重義 昭和29年作 1尺3寸 宮惣 昭和25年作
神田松永町町会								無し
神田練堀町町会	無し	無し	無し		無し	あり	太鼓山車 昭和31年作	無し

※本一覧は、祭礼文化継承事業における各町会アンケート回答、園田稔「祭りと都市社会」『國學院大學日本文化研究所紀要』23輯（昭和44年）、江都天下祭研究会神田倶楽部『明神さまの氏子とお神輿』（武蔵野書院、平成13年）等を参考にして作成した。